科　目　名	**生物基礎**	単位数	2 単位	学科・学年	全　　科　　1 年
使用教科書	生物基礎　　数研出版			副教材等	新編生物基礎準拠サポートノート（数研出版）

学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のように養うことを目指す。
（１）日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
（２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
（３）生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

学習評価

○　次の三つの観点に基づき、学習内容のまとまり（定期考査までを学習のひとまとまり）ごとに下の評価規準により評価を行い、学年末に５段階の評定に総括する。

①知識・技能	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

評価方法＼観点	①	②	③		
学習状況観察	◎	○	◎		机間巡視、観察
探求活動・課題プリント	○	◎	○		補助教材
ノート・プリント提出	○	―	○		学期に数回提出
テスト	◎	○	―		定期テスト、確認テスト

※表中の◎は観点の中でより重視する部分である。

履修上の注意

・「生物基礎」は、生物学的な方法で自然の事物・現象を理解し、探究することを目指す科目である。日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解を深め、科学的に探究する力と態度を身に付けるため、テレビやネット、新聞などで取り上げられる生物学的な事柄に関心を持つよう、心がけること。その際、生命の尊さや自然環境の保全に関わるものが含まれていることが望ましい。

学期	月	学習内容	時数	学習のねらい	学習活動（評価方法）
1学期	4	第１章　生物の特徴 １節　生物の共通性と多様性	3	生物は多様でありながら、共通性があることを理解する。	学習状況観察 補助教材 提出物 中間考査
	5	2節　エネルギーと代謝	7	生物に共通する特徴のうち、全ての生物が細胞から成り立っていることを理解する。 生物の体内では常に物質の合成や分解の化学反応が行われていることを考察する。	
	6	３節　呼吸と光合成	7	呼吸や光合成によってATPが供給されることを理解する。	学習状況観察 補助教材 提出物 期末考査
	7	第２章　遺伝子とそのはたらき １節　遺伝情報とDNA	7	DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解し、遺伝情報はDNAの塩基配列にあることを理解する。	
2学期	9	２節　遺伝情報の複製と分配	8	DNAは半保存的に複製され、細胞周期の進行に伴って、正確に複製されて、2つの細胞に分配されることを理解する。	学習状況観察 補助教材 提出物 中間考査
	10	３節　遺伝情報の発現	8	タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解し、細胞の機能に応じて発現する遺伝情報が異なることを理解する。	
	11	第３章　ヒトの体内環境の維持 １節　体内での情報伝達と調節	5	自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、体の状態の調節が行われることを理解する	学習状況観察 補助教材 提出物 期末考査
	12	２節　体内環境の維持のしくみ	5	ホルモンと自律神経の働きによって、体内環境が維持されていることを理解する。	
3学期	1	３節　免疫のはたらき	5	からだには異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。	学習状況観察 補助教材 提出物 学年末考査
		第４章　生物の多様性と生態系 １節　植生と遷移	5	植生の成り立ちや相観について理解し、植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する。	
	2	2節　植生の分布とバイオーム	5	気温と降水量の違いによって、地球上には様々なバイオームが成り立つことを理解する。	
	3	３節　生態系と生物の多様性	5	生態系の成り立ちを理解し、生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。	